

和名所圖會

後編

卷之三十一

冊	架	函	號	類
一一	一一	一八	八七二	和書門

冊	架	函	號	類
一一	一一	一八	八七二	和書

内閣文庫	
番號	和 8872
冊數	11 (8)
函號	172 177



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

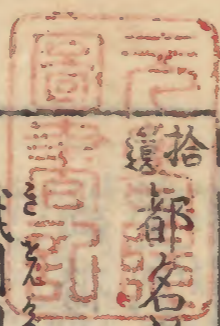
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



拾遺都名所圖會卷之二目錄

九青龍首

祇園削掛坊

祇園香煎

螢岬

泰山府君

祇園女御

崇徳馬場

之井

姫堂

地藏院

九重丹楓

日親廟塔

同神事

軒茶屋

直葛原

捨山王

鷲尾

桂橋寺

藻虫蝨菴旧趾

大日堂

清水隨水堂

秋葉社

通妙寺

千文菰

知恩院

歌仙堂

疫伏社

雲居寺旧跡

靈山寺

鼠堂屋敷

仲光院

尾振谷

六條院陵

良經公碑

神輿洗

太子水

芭蕉堂

蓮華院舊蹟

高其寺

舉白堂旧蹟

經書堂

寶徳寺

南藏院

延年寺过子

法園寺

伊澤

袋中菴
 阿佛家
 城東寺
 專定寺
 泉涌寺
 萬壽寺
 海藏院
 法住寺旧蹟
 暗明墓
 極樂寺
 勸修寺
 大石屋舖
 赤染地
 西福寺
 平教盛家
 智積院
 雲龍院
 龍尾祠
 俊成卿墓
 月輪
 羅刹谷
 獨蝕水
 稻荷山初午迄
 山階八幡宮
 田村將軍墳
 安祥院
 焰魔堂
 上行寺
 新日吉社
 自然居士墳
 光明峯
 藥師堂
 昆沙門堂
 小栗柄法喜樓林
 三條石大屋墳
 野色山
 西光寺
 六道迎送
 岸
 常盤前宅地
 三聖寺
 西寺古蹟
 地蔵堂
 遣迎院
 田中社
 明智光秀七蹟
 西之山巖屋社
 小野隨心院

萱尾社
 北栗柄大神
 牛尾名那山
 白石明神社
 白河寺
 梅本寺
 栗山寺
 四宮河原
 業平谷
 阿弥陀堂
 腹帯地蔵
 大宅巖屋社
 布引瀧
 白石菴
 三宮社
 花山阿弥陀堂
 神無森
 諸葉山
 奴茶屋
 内裏之
 興福寺古跡
 地蔵瀧
 蓮如上人墳
 花山稻荷祠
 元慶寺
 鵠坂
 十禪寺
 地蔵寺
 外山
 妙見社
 法蔵寺
 實如上人墳
 大石断食石
 僧正遍昭墳
 蟬丸塔
 人康親王旧趾
 護國寺



祇園淨神詠

俗刺祇園午頭天王の淨神詠と云んは浄土より近江松

祇園淨神詠 俗刺祇園午頭天王の淨神詠と云んは浄土より近江松

我宿小寺とやの櫻花さうへ人妻人の身もさうへん

の満の梅 紅梅の名あり

宗祇

今昔物語云祇園ハ元山階寺の末寺あり人右々又祇園乃東ふ比叡乃
末寺蓮華院といふ寺ありさうは祇園の別當良兼といふ者ありて蓮華院
の堂乃小微妙紅葉乃ありてと抑ふりて蓮華院の僧とれと制して曰
別當いふて天台末寺の心より本とさうはゆさ案内とて折る久そと
る非常の事と良兼と使とて折るさうは良兼大い噴てのくいと
其本なみか伐と末とと從者板やさうは良兼といふ者ありて蓮華院
從者の末ぬさうは良兼根際より伐てたり良兼よく噴さうは板
横川の慈惠僧正天台の座主として殿下の淨修法不許寺小強し
てさうは良兼といふ座主大い噴てさうは良兼と召ひける良兼放言し
隨ふと寄文と儲く點と加へと責むハ神人等責らんとて判
かたり斷して後祇園ハ天台の末寺と早く別當良兼と追放とさうは
座主より僧らる良兼へさうは良兼と儲け軍と調てけり同座主
弥喚く西塔の平南房小僧らる磨荷といふ武術身一人と致頼り
却り名高き無と二人と祇園とて良兼と追ひさうは良兼と追
却り其後より磨荷と別當小ありて執行せりさうは良兼と追
祇園社 百首 坂の板より板ふかともさうは良兼と追 後成

祇園削掛神事

天照大神の御祭事と云 毎茶除夜子の坪の坪より社系

の諸人雜言と恣り他人と誹謗と假令其聲と聞其人と知るといとも

されと争は是と恨と邪義の板りて勸善懲惡の責ありん其雜言に

勝とる方途年乃若兆ありと又系法下向の道條ゆても放言とる此世

俗謬て是と削掛といふ作神事を母の刺計ハ社務執行腰連ふの社

司前驅して社系一執行ハ拜殿小昇て神前小黙坐とる未少時ありて

経咒と誦一 天下安令依禱る東西の欄れ内ハ削掛の本とた石不達

是かのく六屯さし即十二月の板小表とい時小是と燎と具烟の靡と

向方と見て今年五穀の豊凶と占ハ厥后社司新小井水と汲く削掛乃

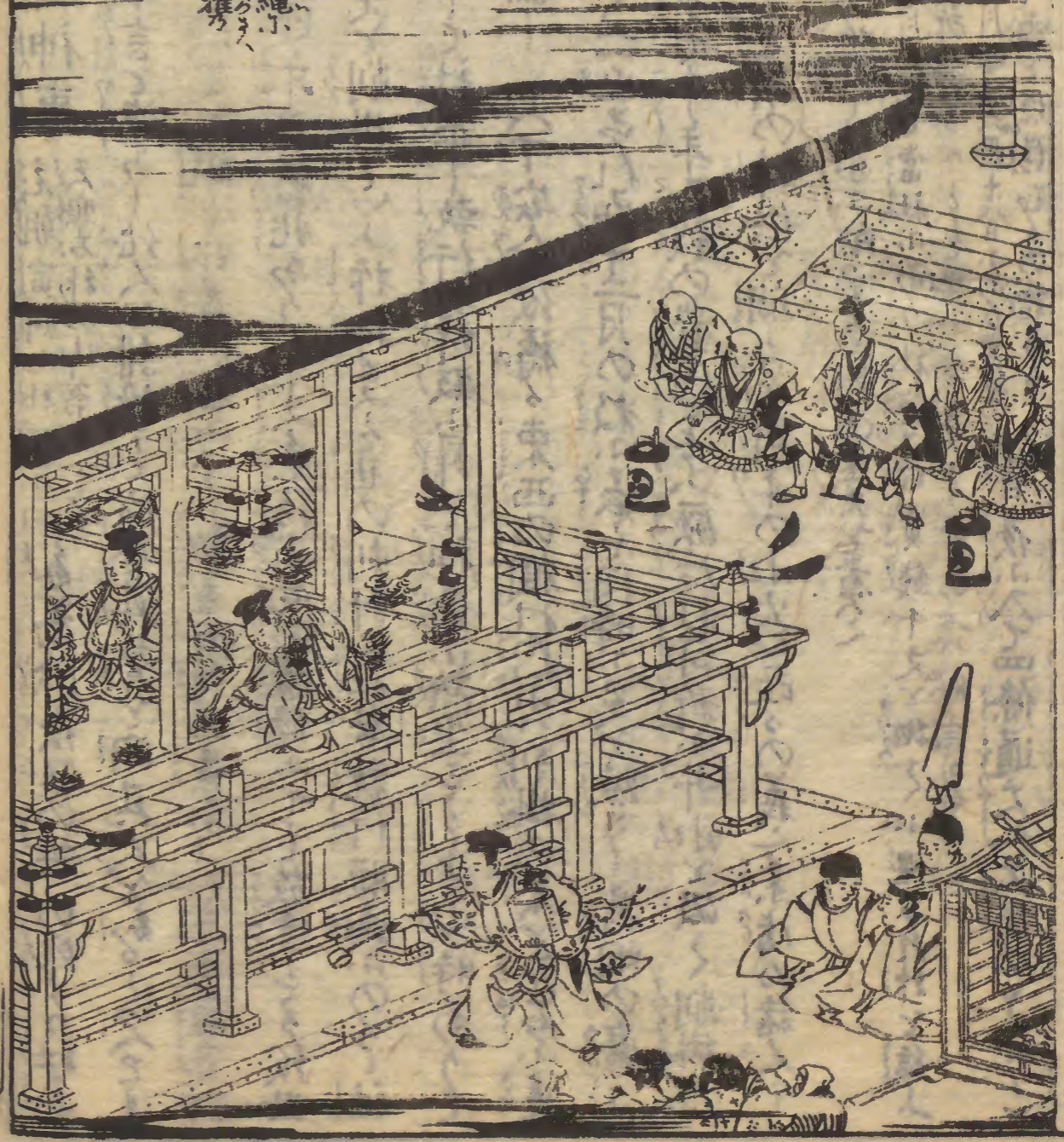
尖とつくと朝の神供と調ハ是新年の水火と改るの義と系清の諸人も

亦具火と推つて家小飯つと朝の災と煮こ

千文板 三月十四日當社小あり社説一曰實錢千文と抛と小纏るん社と板

神連洗 五月晦日六月十八日小あり當社の け日夜小入て四條通大和太後のがと

祇園社割り
 掛の神事ハ
 例年元朝宣の
 別み七社坊
 福善院お教小
 於て法施を
 其四方ハ割掛
 の本十八所ありて
 法樂終りぬとて
 され小火と持
 四方ハ配一入水
 を汲んぐや
 是法陽和順の
 ありしとくや
 かの割掛の火と
 未指のく々火繩小
 うの一家に渡
 ゆりて之朝
 難委の焼火
 とは是らん其



車
 疫
 鬼
 福
 寺



祇園二軒茶屋

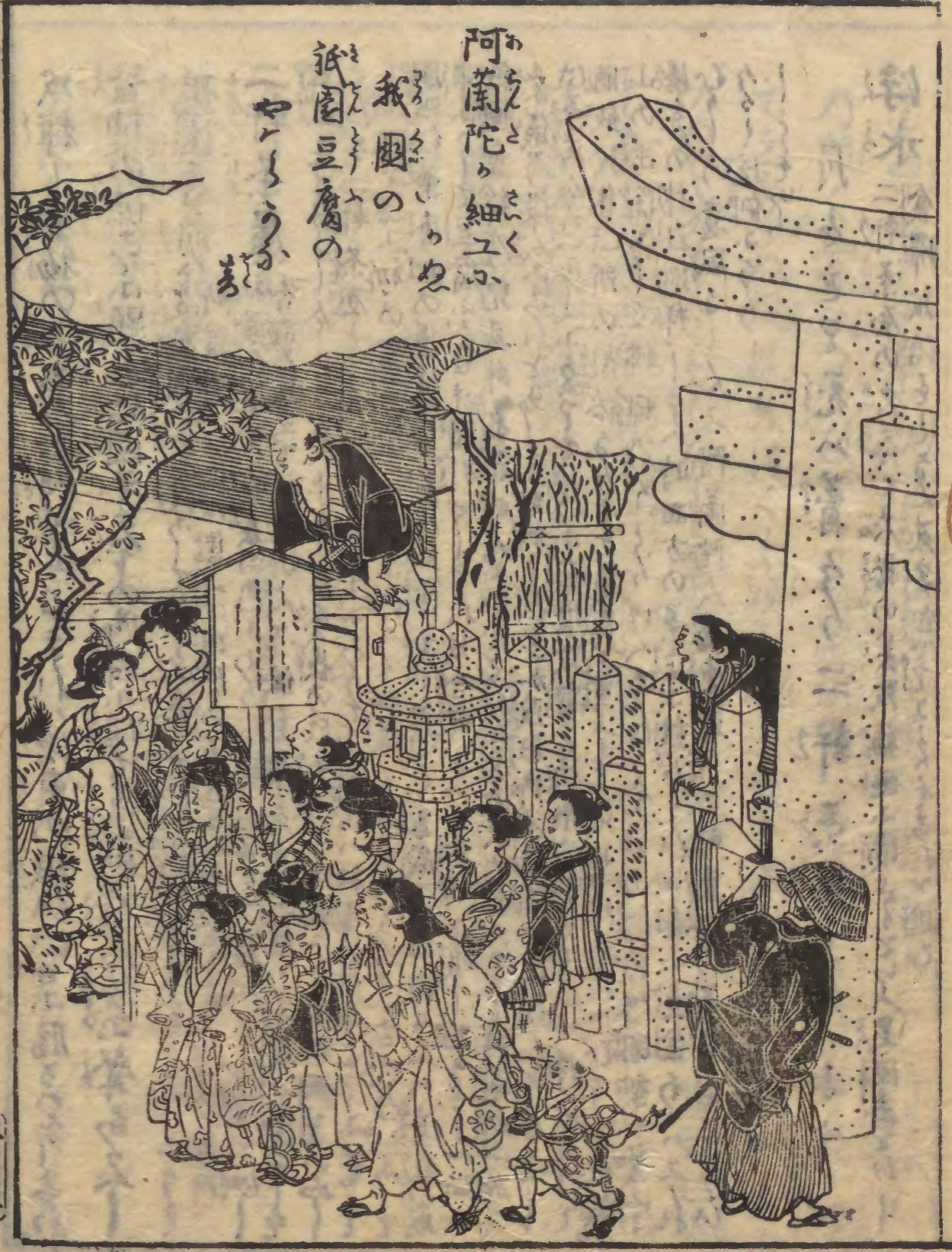


阿蘭陀の細工

我國の

祇園豆腐の

ヤシロウ



此本

本堂廻櫻樹 定の城主兼井信濃守 影向石 法然上人降臨の時加茂を辨

元祖御廟 東の山の上のあり賜蓮堂と云づくは名義は法然上人傳記小曰

其墓上人の廟堂小舎あり其の夜一人の女髪より年々

ありていしと極樂往生の誓ひ入るるを云ふは地獄に諸人そのふは花とあり

室入婦人掌と合て髪と交ると云ふは法然上人の信願の心懐を云ふ

墓の入りては法然上人の遺影ありて法然上人の遺影ありて法然上人の遺影あり

太子堂舊跡 五橋下寺町あり地蔵尊 宗持持念佛あり之原小鍛冶

太子水 法恩院門前殿舎の地蔵尊 宗持持念佛あり之原小鍛冶

本願寺舊跡 山門の山麓馬場の地と親鸞聖人持念佛の跡あり塔中崇奉

年聖人の息女覚信尼の遺影あり之跡あり覚信の息女覚信法師より代々

経て文明二年二月十六日山徒の為小破却せしゆと云ふ

螢岬 計ありのの上五町 東山法恩院と云ふと云ふ

かきくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

真葛原

知恩院山門のまへより南園山長樂寺のまへより

我意へ松とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

はかへ蓋鏡和尚坐禪石のうへ小坐して泳ぐと云ふ新古今集より大僧正と云ふ

面と松とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

かきくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

字かありて恨るるのほく切ると云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

今をまははくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

右の抄小名所小ありと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



入のり日殿... 終りて終りて... 終りて終りて... 終りて終りて...

百合 遊可

畫士峰十軸 石類器 眞葛州

芭蕉堂雙林寺の境内西行庵乃西小いともあり

山家集 菴室小風...

西行法師

文庫 けうは...

宋乃...

芭蕉翁肖像...

ありて...

人もの心亡命の後遺言...

新の月二日...

芭蕉翁羽碑...

文流...

和師...

道と...

小一...

名を...

道小...

あは...

高皇寺

秋の花

西行法師宮城野の
萩と巻法和尚小倉の
具萩今小萩の作り
と草履小萩の作り
竹の花の法具園の
人ささげり作り小

あけさ

屋

えたる

萩の花

宗祇



小萩

らん

中七介の

小貝

こさる

つん

とき飯



高臺寺方丈

秀吉公御殿... 高臺寺方丈... 秀吉公御殿... 高臺寺方丈...

隨水尊

日所... 隨水尊... 日所... 隨水尊...

小方丈

上段... 小方丈... 上段... 小方丈...

小書院

探幽... 小書院... 探幽... 小書院...

秀吉公影像

神... 秀吉公影像... 神... 秀吉公影像...

政所公影像

政所... 政所公影像... 政所... 政所公影像...

菊潭水

水... 菊潭水... 水... 菊潭水...

安閑窟

安閑窟... 安閑窟... 安閑窟... 安閑窟...

天哉翁

天哉翁... 天哉翁... 天哉翁... 天哉翁...

長嘯塔

長嘯塔... 長嘯塔... 長嘯塔... 長嘯塔...

政所公塔

政所公塔... 政所公塔... 政所公塔... 政所公塔...

高臺寺

高臺寺... 高臺寺... 高臺寺... 高臺寺...

折當寺

折當寺... 折當寺... 折當寺... 折當寺...

門等

門等... 門等... 門等... 門等...

高臺寺十境

高臺寺十境... 高臺寺十境... 高臺寺十境... 高臺寺十境...

崇徳馬場

崇徳馬場... 崇徳馬場... 崇徳馬場... 崇徳馬場...

桂橋寺

桂橋寺... 桂橋寺... 桂橋寺... 桂橋寺...

靈山寺

靈山寺... 靈山寺... 靈山寺... 靈山寺...

本尊阿弥陀佛

本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛...

圓光大師像

圓光大師像... 圓光大師像... 圓光大師像... 圓光大師像...

白堂舊跡

白堂舊跡... 白堂舊跡... 白堂舊跡... 白堂舊跡...

東山山家記

東山山家記... 東山山家記... 東山山家記... 東山山家記...

年

年... 年... 年... 年...

見

見... 見... 見... 見...

東山山家記

東山山家記... 東山山家記... 東山山家記... 東山山家記...

年

年... 年... 年... 年...

見

見... 見... 見... 見...

東山山家記

東山山家記... 東山山家記... 東山山家記... 東山山家記...

年

年... 年... 年... 年...



たくはくまるとの待必と名づく

くろひはく松洞堂ふのふま

羅山文集 春日奉訪長 八坂東邊小路分 春風花木向依

長嘯新東のふたふたふん

活所遺稿 飲舉白堂 路入東山七月寒 佳人世外坐雲端

山乃井 願住密勸之東之靈心

日より十講と始らるる五日五部の大衆

井寺のほろろと預かりと云

かくとれつさのあてむいあけてあねおと今ねるま

ふの井れふとふのさくしゆたふり

みさとふとふんこぬ人のと

赤坂書

源 鱈菴曰趾 靈心の中よりあり今詳あつた

鼠堂屋敷 土人云二年坂の下路の末

經書堂 二年坂乃上ふあり聖徳太子

經書堂 二年坂乃上ふあり聖徳太子

大日堂 經書堂乃陳あり真福寺

仲光院 大日堂の南ふあり本尊愛深

寶徳寺 仲光院のふあり時宗本尊阿弥陀佛

地藏院 馬止の側ふあり本尊如意輪觀音

諸人小結縁あり





鳥邊山 本壽寺



智積院



智積院
門前
日吉社



観音寺

和所表延院の山あり本尊十一面観音弘法大師の化立像二尺計
脇士九不動明王智證大師の化右毘沙門天運慶乃化者寺を創乃

善能寺

和所観音寺の乾二町あり本尊聖觀音稻荷大明神老翁の化
一負少して世人新慈神と稱す

戒光寺

泉涌寺總門の内あり本尊釋迦佛立像一丈六尺竹之頭面を
自徳の出現あり園之曇照和尚宗因より持来して其徳に運慶

新善光寺

後世大宮通一條の山あり
後世大宮通一條の山あり

悲田院

新善光寺の南あり本尊阿弥陀佛立像二尺二寸計高院へ遷移
後世大宮通一條の山あり

常盤宅地

泉涌寺落橋の山あり本尊阿弥陀佛立像一丈二尺計高院へ遷移
後世大宮通一條の山あり

落橋

大木大流の山あり泉涌寺路あり一名落橋と云ふ化立像の義之保氏物
語不出世小大落橋と云ふは後世大宮通一條の山あり

瀧尾社

大木大流の山あり泉涌寺路あり一名落橋と云ふ化立像の義之保氏物
語不出世小大落橋と云ふは後世大宮通一條の山あり

五葉辻

泉涌寺の南あり本尊阿弥陀佛立像二尺二寸計高院へ遷移
後世大宮通一條の山あり

三聖寺

東福寺小門の内あり本尊阿弥陀佛立像二尺二寸計高院へ遷移
後世大宮通一條の山あり

愛染堂

泉涌寺の南あり本尊阿弥陀佛立像二尺二寸計高院へ遷移
後世大宮通一條の山あり

万壽寺

泉涌寺の南あり本尊阿弥陀佛立像二尺二寸計高院へ遷移
後世大宮通一條の山あり

後成御墓

泉涌寺の南あり本尊阿弥陀佛立像二尺二寸計高院へ遷移
後世大宮通一條の山あり

自然居士塚

泉涌寺の南あり本尊阿弥陀佛立像二尺二寸計高院へ遷移
後世大宮通一條の山あり

西寺古鐘

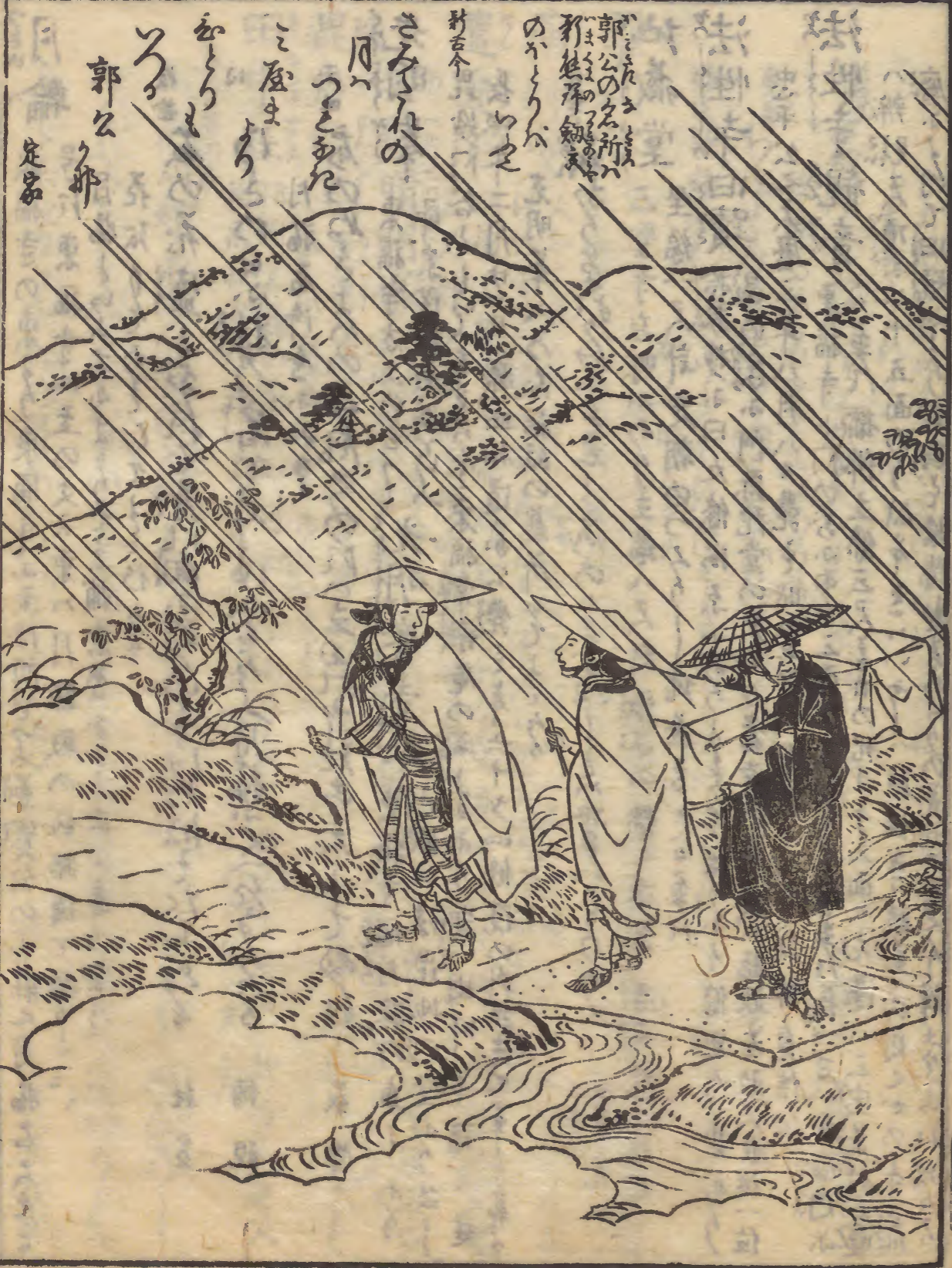
泉涌寺の南あり本尊阿弥陀佛立像二尺二寸計高院へ遷移
後世大宮通一條の山あり

海藏院

泉涌寺の南あり本尊阿弥陀佛立像二尺二寸計高院へ遷移
後世大宮通一條の山あり

梅雨
白屋黄梅雨
蕭蕭撫枕寒
南山朝暮色
不作出門看

服元喬



郭公の名所ハ
新徳澤 劍文
のかとりの
つとまた
さみよれの
月ハ
こ屋ま
かとり
郭公
定家

式部くろの方とていつてわたりけふふとあるまのあつてきとどみ
々しとあつた何者ぞとてはあまのきつていつてたるといふをえられん
何れとて指荷のふのあまのわたりよりあつてあつた

と書よりきり式部あつたといひてはあつていつてたるといふとあつた

極楽寺 同街田中社の南東方あり本尊阿彌陀佛 鑑真の化長三尺計
脇土指戸王 住持尊保州極楽寺の時號とつてあり再建は

十王堂 門の外南あり本尊十王の像あり其内土とて十王を依りしを
稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

稲荷山 枕草紙にいひありふかひいといふてまづりし中のみよりのやと

初
午
圖
山
荷
楯



南小栗



南小栗 明智光秀 亡滅旧跡 檀上 本經寺



此處乃明智光秀之舊居也
南小栗村は、後醍醐天皇の
側近ありしが、光秀の
一門を以て、今も
名残あり

此處は、光秀の竹の
一門を以て、今も
名残あり



勸修寺
八幡宮



三條石太
墳

夏人首
名やれり
のいぬの
まろ
人ふあはれ

依之乃





巖屋大光明神



山科大石古蹟

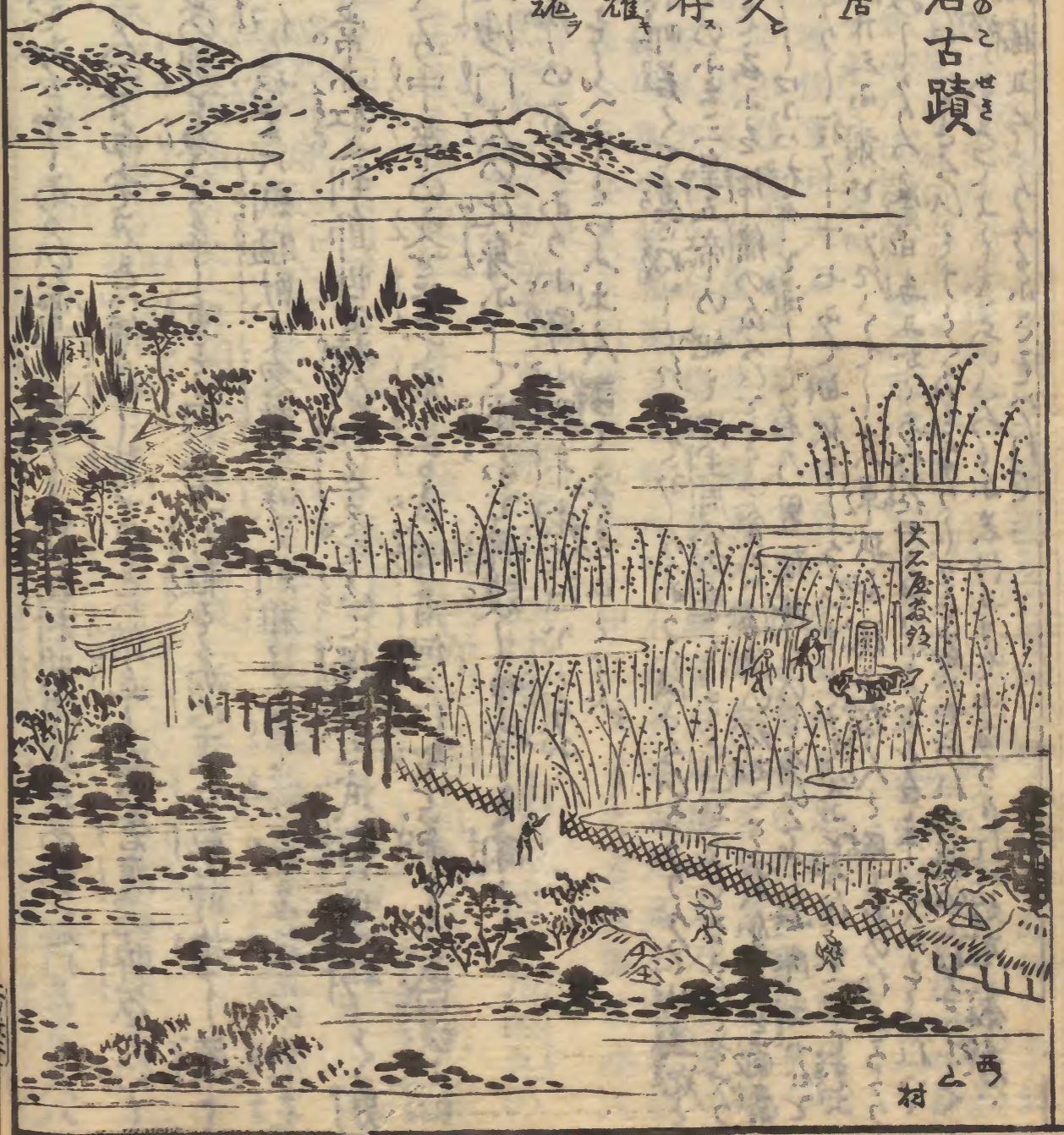
題大石氏故居

忠精聞天久

英風今尚存

自明清露耀

此夕似招魂



小野隨心院





大宅
岩屋明神

こいぬきハ身とらん茶の祓とて誘ふわいんとて
こいぬきハ身とらん茶の祓とて誘ふわいんとて 小井小町
 とよしで次だ山おらあれゆくかともこをふい那ふとささくく人向乃

萱尾明神社

醍醐の南日孫あり土人海内神
 例祭九月五日あり一は界の徳あり

腹帯地藏

萱尾の西あり奉尊の行基の化長八尺
 寺号と係福寺といふ

大裡芝

日孫村の良又町とあり日孫家の別荘乃旧地と土人室家
 口探して今大裡芝といふ

外山

日孫村のむのふとつは所小鴨長明方丈石あり
 由縁前縁のふとつ近報岩垣氏碑石と建

天神宮

創祭九月晦日と
 創祭九月晦日と

巖屋明神社

山林大宅村のむのふとつ神宮道祖神西のふとつ同神之社式
 山科神社二座土人生土神と次例祭九月十六日神樂二基

興福寺旧蹟

山階寺といふ
 山階寺といふ

編年集成之大織冠鎌足公山階陶原館改てささくく時八齊明天皇二年之
 續日本紀云神護景雲二年山階寺一行車しや天武帝白鳳二年之
 階寺と大和國高市郡麻坂といふと標書云之明帝和紀二年海公
 日の地ふりして興福寺と改む
 興福寺橋 日所街道の中ふとつ橋と
 佛足石 いふは所ふとつ今南都西来某所
 妙見寺 岩屋明神のむのふとつあり妙見堂ありと云ふ拾芥抄曰妙見寺王城
 の四がこあり今松とては所東方の妙見寺あり

大宅村
大宅寺



音羽山

頭注密勅云相坂國ハ城と遊びの境之を村ハ實れ有るのハ此也
古今
音羽山といふ法蔵寺といふ觀音堂あり

杖丸の吹し日より多ねふ嶺乃指ををつたふら

貫之

あつ神の多羽乃瀧やはさる人園のさおとの久そられ

中務親王

流は流ふ流ふ水れ音羽河せくくもるた五月雨乃

為氏

杖ふくむらゆくゆ小衣入る善羽の雲や夜をさるる

頼泰

牛尾山

名寄 郭公いそきさゆ善羽ふぬりた雲にやさるる

藤原成房

布引瀧

堀川 百首 牛の尾やまれくるまふろはてはつたよん筆乃白書

後理太史

鮎ヶ淵

布引瀧より二十回計のたふあり巖洞小方四回餘の淵あり

刺清水寺の音羽瀧一日一夜血涙をぐれ悲さるるともん又の大地の尾と

牛尾山法巖寺



坂戸大



坂戸大

小山村法蓮寺
白石明神



小山村法蓮寺

此の芝生少く焼捨るる今此所と焼芝といふ景綱ハ秘家小のりて海
 鮑乃障氣小あり命危ふくといふ所小香際の衣と着る異僧忽
 として来り多ひ茶の靈方と與へり即調合されと服茶といふ
 金一りのぬきをく小半尾觀世音の應驗るり
 海乃りそれより四ノ代の家代々秘家とて傳へる後ハ
 秀此靈業の功依たぬ一人といふ極罪の者十人と出でて大益ある
 と人百八人といふ茶飯服し各二人といふと用はりの八人の者ハ
 一人ハ即死を足より茶名の上と様の文と冠らしり小村様金厨
 号に設その靈錫之今も國々真村四ノ井氏の支族ハ授代はく
 世に引む

差宮八幡 表村小あり此所の生土神ハ創創ハ九月日ハ新小より七
 あり祠乃傍古墳あり土人玉塚といふ

白石明神社 小山村小あり東のふの下小一の白石あり具例小社あり

白石庵 日所小あり西東祇樹一源統律師行狀云律師講ハ會統
 肥後の人ノ藤氏一源と成寅の春小ふ小居して此の
 後白石の神祠ハ隣る故白石庵といふ

蓮如上人墳 山科本撰寺舊地西小之ニ水記云享祿五年八月昔
 寺中廢大ニ合祀して茲茲佛國の如し
 今日一時滅亡に記

實如上人墳 日所東野村の云く小あり實如上人ハ本村より九代
 の八男之史秘法印權大僧都大永五年二月二日遷化と
 大宅や山科はく小珍山の云くくは多たを乃月法 蓮如上人
 九月十二夜月かろりりりハ志と見て

山科妙見堂



奉贈日本山科實如老上人

上人德行是問何一箇禪門大丈夫心裏要容天外善此生渾似竹中虛

大明正德八年五月 杭州鉄冠道人詹仲和

實藏ふあり大明正德八年八月日本永正十年不當

青龍山白河寺

東野村ふあり禪宗妙心寺小屬本多阿弥陀佛ハ慈寛の

三宮明神社

生土神ハ所ふあり祭社三座背不合尊左指荷右ハ幡ハ所乃

阿弥陀寺

三宮本堂之本多阿弥陀佛脇士毘沙門不動同祖ハ大僧

花山稻荷社

南花山ふあり世の人ハ石指荷と

梅本寺

花山遊分の者ふあり禪宗曹洞中興ハ加別金澤大寺寺

本尊十一面觀音

長二尺脇土ハ愛深不動ハ本尊と發摺の初まると号乃

悲歎像法衣ありあり故ハ帝の愛妃弘徽殿の女侍空しくあり也乃

乃近國の靈佛乃觀世音ハ所と選ませたまは

西國の始祖佛眼上人發摺の初まると号乃

故ハ發摺の初まると号乃

阿弥陀堂

阿弥陀堂の本尊と一説ハ重盛公燈後堂本尊と云々

元慶寺

妙巖和尚天明三年本堂再建あり

本尊樂師佛

坐像七寸僧正脇士阿弥陀佛慈覺の化

花山法皇像

胎自共小當寺ハ陽成帝ハ清願山にて貞觀十一年ハ佛

花山僧正

僧正遍昭依リ俗世ハ侍郎良安世リ男ハ一宗貞と号レ仁明帝

花山僧正

乃近臣ハ比叡山ハ小昌ハ嘉祥三年二月帝崩ハ

花山僧正

其後慕小ハ人トシテ比叡山ハ小昌ハ嘉祥三年二月帝崩ハ

花山僧正

乃近臣ハ比叡山ハ小昌ハ嘉祥三年二月帝崩ハ

花山法皇

人皇六十五代の帝諱ハ師貞冷泉第一の皇子寛和二年當寺ハ入テ

花山法皇

乃近臣ハ比叡山ハ小昌ハ嘉祥三年二月帝崩ハ

花山法皇

乃近臣ハ比叡山ハ小昌ハ嘉祥三年二月帝崩ハ

遍昭墳

花山法皇の墓ニ河とくり民家の西田向ハあり

其

身ハ人トシテ比叡山ハ小昌ハ嘉祥三年二月帝崩ハ

東山寺

鑑國師拾遺抄云東山寺華云と號

神無林

追分の南半町計街道の左ハあり

蟬丸塔

土人の口伝云り実記詳ハあり

世中

世中ハ人トシテ比叡山ハ小昌ハ嘉祥三年二月帝崩ハ

四宮河原

仁明帝第四宮の回蹟云ハあり

諸葉山

六帖ハ諸葉社あり

六帖

六帖ハ諸葉社あり

喜撰

喜撰ハ諸葉社あり

喜撰

喜撰ハ諸葉社あり

喜撰

喜撰ハ諸葉社あり

喜撰

喜撰ハ諸葉社あり

喜撰

喜撰ハ諸葉社あり

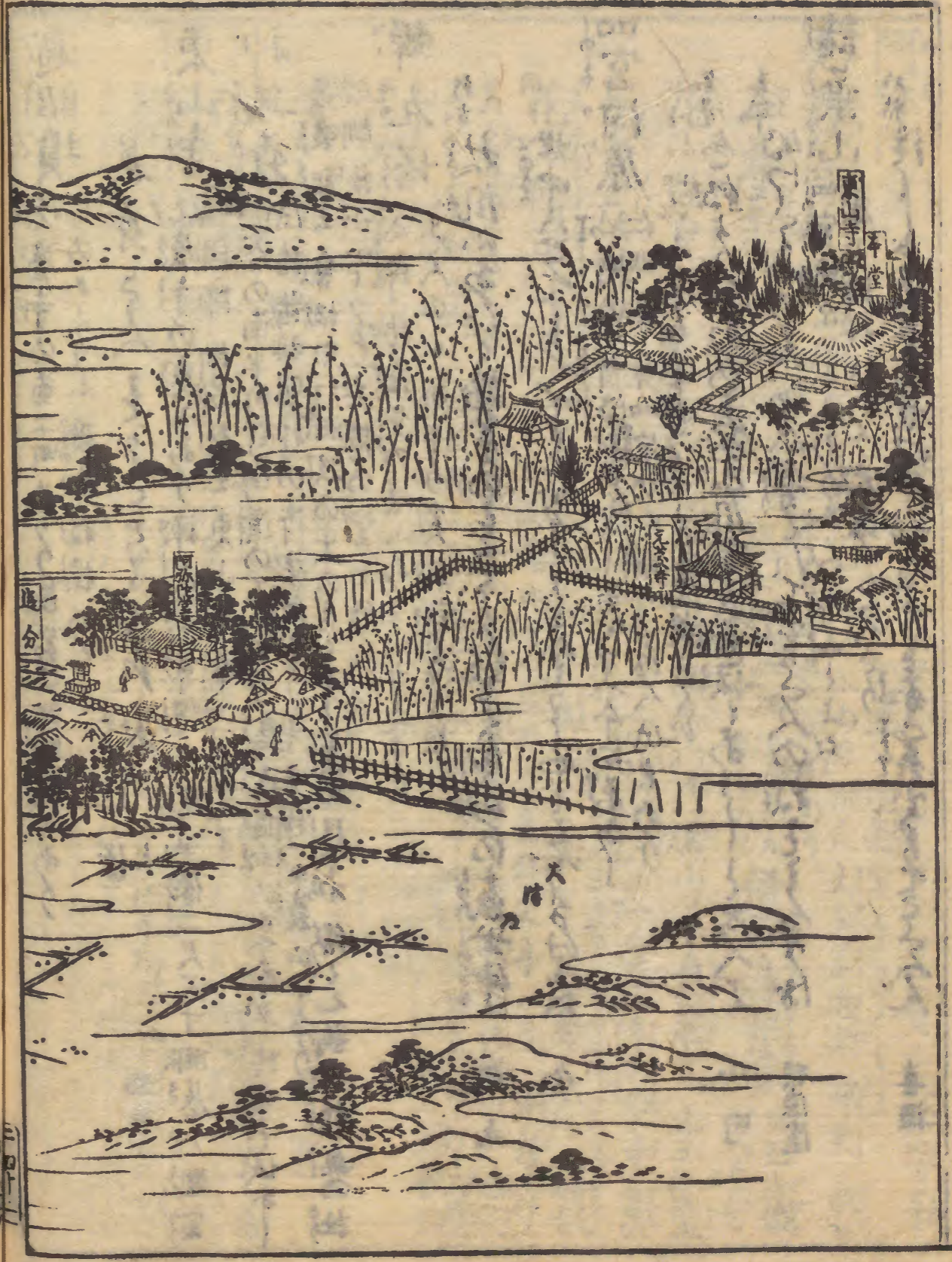
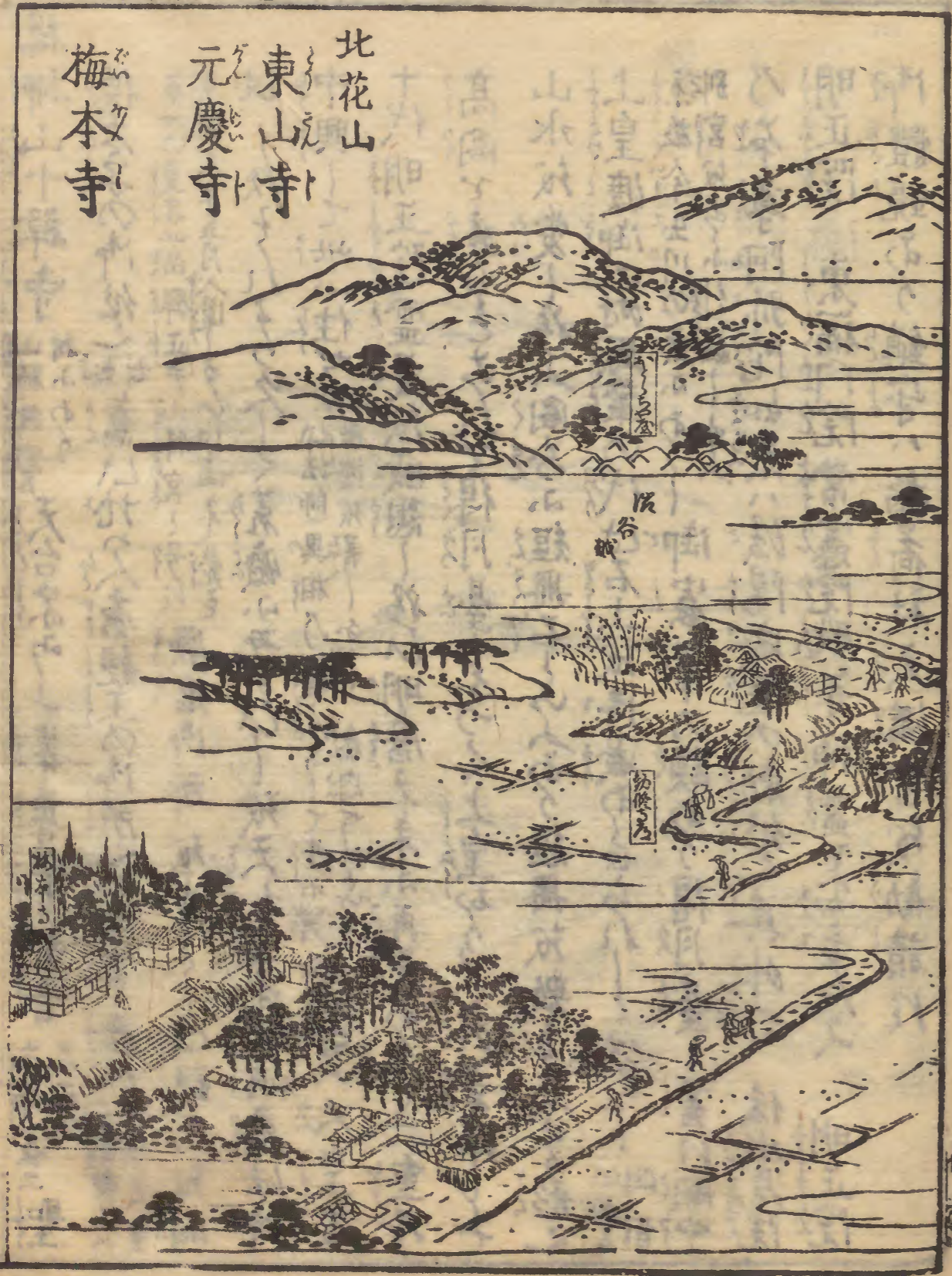
喜撰

喜撰ハ諸葉社あり

喜撰

喜撰ハ諸葉社あり

北花山
東山寺
元慶寺
梅本寺



揚柳山十禅寺

山村御四宮 天台宗にて奉尊ハ聖観音 之儀長二聖

徳太子の沛化之勅 舊ハ地ハ人康親王の沛所之山階宮ニ於テ 仁明天皇

第四の皇子四品彈正尹山科宮ト号リ 厥后沛所成寺トシテ親王成閑

眞觀元年五月入道トシテ十四年薨ト 祖ク後それより久ク荒廢スルニシテ天和年中ハ真慶法師

中興して此ニ住セリ 法師興柳乃道人トシテ牛小野 堂舎ハ人皇百

十代明正院靈爰成感想シテ明曆之末ハ再宮ありて二重乃

高閣と建ラセトシテ得月臺と云フク上皇ありク竹葉はしく

山水成愛シテ小閣おハ短冊石と云アリ短冊成敷キハ形之

上皇渡御の御鳳輦の代ハ石上成沛成おセラレト云ヘ 御宸筆の額あり得月臺と書ク閣中

乃奉尊阿弥陀如来ハ後陽成院の勅化之其外 後水尾院

明正院 東福門院常憲院殿等神靈ト安重ト云 明正院

沛體鏡あり鎮守ハ稻荷社天満宮成勸請ナ

四宮川

十禅寺橋

巡リ地藏

蟬九塔



山林十禅寺



山科十禅寺





舞福
 茶屋の
 名
 空
 ぬ
 几
 中
 翻籠
 奴茶屋

二ノ四十五

人康親王舊蹟

十禅寺の傍石橋の西に在る中一泉と云ふ字の地ありし所の清
 保物語を心階のセヤの心とありまたその心抄に宮小跡ありとありて
 おのりくはるにせよまきまきとて来りてふいづり海川とらうくは
 お海川のまきけせよまきまきとて来りてふいづり海川とらうくは
 西より坂やかえりてふいづり海川とらうくは
 たりしを石をなれりてたむかひの後のまきまきとて来りてふいづり
 乃おの心と云ふとらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 てとていふとらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 國しよりいふとらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 都しはせりてふいづり海川とらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 乃くふふ乃お坂はけとて来りてふいづり海川とらうくは

あつたるをいふとらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは

と云ふよめりてふいづり海川とらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 旧記云はる清和帝の十一年貞観五年仲春紀伊千里侯小老櫻あり人
 憐んで見ふとらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 乃お保物語小ありとらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 後醍醐帝愛しとらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 切形の後醍醐帝とて来りてふいづり海川とらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 年の冬勅勅とて来りてふいづり海川とらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 と云ふとらうくはとて来りてふいづり海川とらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 日國福王寺小ありとらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 乃お先づり具附はる石聚樂城小ありとらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは
 王寺小ありとらうくはとて来りてふいづり海川とらうくは

地藏寺





竹
ノ
皇
ノ
護
國
寺



業平谷 土人云々 今昔物語云々 右近中将在原業平と云人

盗賊 倉あり 中將 女とて 後乃が 押遣て 起と云

茶店 大津 街道 藩谷 越乃 別と云

射術 射術の達人と云れ 射術の達人と云れ 射術の達人と云れ

地藏寺 山科 竹ヶ鼻 小あり 禪宗 寺あり

護国寺 日所 有 佛あり 法義 宗あり 國基 八人あり

阿弥陀堂 日所 有 佛あり 法義 宗あり 國基 八人あり

